

生活者通信

生活と政治をつなぐ情報紙

No.333
2019.6.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL http://www.seikatsusha.me
発行責任者 西崎光子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可

生活者ネットワーク3つのルール

- 1 議員は交代制(ローテーション)**
生活者ネットワークの議員は、最長でも3期12年で交代します。議員を職業化・特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に**
生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。
- 3 選挙はカンパとボランティアで**
選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでお金(カンパ)と知恵や努力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都議会ネット

■都議会第2回定例会の開催、6月4日～19日。
代表質問 11日、一般質問 12日。

地域ネット

練馬ネット

9条スタンディング
6月9日(日)・7月9日(火) 12:00～13:00
練馬駅前 毎月9日同時間・同場所
主催:練馬ネット9条の会 03-3993-4899

大田ネット

「3.11」を忘れない
6月11日(火)・7月11日(木) 18:00～19:30
大田・生活者ネット事務所(蒲田駅東口8分) 300円 毎月11日同時間・同場所
03-6424-7561

武蔵野ネット

脱原発と平和を求める市民デモ
6月16日(日) 13:30～ 集合:境南ふれあい広場公園(武蔵境駅) 主催:脱原発と平和を武蔵野市からすすめる市民の会
0422-36-0415

町田ネット

茨城県民はなぜ、原発再稼働に反対しているのか!—首都圏の人たちはなぜ意思表示をしないのか?
6月22日(土)14:00～16:40 町田市民フォーラムホール(町田駅東口8分) 大石光伸(東海第二原発訴訟団) 要予約 前売500円、当日700円・学生無料 主催:原発事故を考える町田市民の会 042-729-2296

武蔵野ネット

講演会・世界の自然エネルギー最新事情(仮)
6月22日(土)14:00～16:30 武蔵野芸能劇場小ホール(三鷹駅) 総会記念講演会 大林ミカ(自然エネルギー財団) 無料 主催:NPOむさしの市民エネルギー 090-6015-8706

狛江ネット

みんなの居場所「ながしそうめん」
7月13日(土)12:00～(予定) 西河原公園内こまえプレーパーク/西河原公民館(狛江駅10分) お昼ごはん代金:おとな300円、子ども無料 主催:みんなの居場所 03-3430-1302

生活者ネットワークは東京都内34の自治体にあり、都議1人、市・区議41人の女性議員とともにそれぞれの地域課題に取り組み、同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。
東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。

4月22日、衆議院第一議員会館を会場に開催された「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」立上げ集会のパネルディスカッション



2019年は、国連で子どもの権利条約が採択されて30年、日本が批准して25年の節目の年だ。重ねて今年1月には、日本政府が提出した子どもの権利条約の国内実施状況の報告(第4回・第5回を一括報告)に対して、国連子どもの権利委員会による4回目の審査が行われ総括所見が公開されている。これにもとづき、今後の子どもの権利実現にむける対応が求められている。

国連子どもの権利条約は18歳未満の子どものため、「子どもの最善の利益の保障のため、「生存」「発達」「保護」「参加」の権利を具体的に定めている。しかし、日本の子どもを取り巻く社会経済環境はむしろ厳しさを増しており、虐待、貧困、いじめ、不登校、自殺などの問題が深刻化の一途を辿っている。今回のキャンペーン立ち上げ集会は、子どものための持続可能な開発目標

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン(英語名: Campaign for Convention on the Rights of the Child)

●キャンペーン期間
今期は19年4月22日～20年4月21日(22年までの向こう3年間を想定)

●キャンペーンの目的

- 1) 国連子どもの権利委員会による審査報告(総括所見)の内容を知らせ、日本の子どもの権利条約の実施状況にかかる現状・課題を共有。実施推進に向けた具体的方法について政府・議員・市民社会などが建設的な対話を行う
- 2) 15年の国連総会で採択された持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)にある「子どもたちに投資し、すべての子どもが暴力や搾取から解放される世界」実現に向け、子どもの権利に関する重要課題として審査でも指摘された「子どもに対する暴力」について議論を深める
- 3) 子どもの権利条約の意義の普及、また「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」開始、活動への参加の呼びかけ

が責任を持つて子どもの権利実現に貢献する。

文責 編集部/加藤千鶴子

集会では、予定席数を優に超える参加者が集結し急ぎよサテライト会場が用意される中、国連NGO子どもの権利条約総合研究所代表の荒牧重人さんが開会を宣言。続く基調講演には、日本初の国連子どもの権利委員会委員で弁護士の大谷美紀子さんが登壇。「子どもには権利があり、人格は尊重されなければならないことが未だに浸透していないし、締約国に必須の子どもの権利基本法などの国内法制も急がれる」と指摘。おとな社会が責任を持つて子どもの権利実現に貢献する。

「発達」「保護」「参加」の権利を具体的に定めている。しかし、日本の子どもを取り巻く社会経済環境はむしろ厳しさを増しており、虐待、貧困、いじめ、不登校、自殺などの問題が深刻化の一途を辿っている。今回のキャンペーン立ち上げ集会は、子どものための持続可能な開発目標

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン活動内容はこちら <http://npocrc.a.la9.jp/npocrc/activity7>

私たちが、生活者ネットワークの国政取り組み方針に基づき来る参議院議員選挙に臨みます

2012年から始まった自民党安倍政権は、その党則を「総裁任期連続2期6年」から「連続3期9年」と改正し、既に7年近い長期政権となりやりたい放題が目に見える状況です。勤労者の約4割が非正規雇用であり、格差が広がり、ひとり親世帯の半分の子どもが貧困状況にあるにもかかわらず、3月に茂木経済財政担当相は「景気は緩やかに回復していることに変わりない」と発言しました。家族のかたちは多様化して、介護離職やヤングケアラーの問題は出口が見えない状況です。貧困の連鎖も断ち切らなければなりません。

厚生労働省の「毎月勤労統計調査」で、長年にわたっての不正が発覚したことも衝撃でした。また、多くの省庁や自治体で、障がい者の雇用率を大きく水増ししていたことも明らかになりました。4月に施行された改正入管法では、外国人労働者を単なる労働力としかみなしておらず、受け入れる自治体に多大な影響を与えることが予想できます。10月に予定されている消費税増税に関しても、3歳以上の幼児教育・保育無償化の財源として使うとしていますが、予測される不公平感の拡大や自治体が抱える待機児童の問題、保育の質の低下や保育士の労働条件の悪さが置き去りにされたままであることへの危惧は否めず、すべての子どもの権利を重視した幼児教育・保育政策こそが最優先されるべきです。

沖縄県の辺野古新基地建設に関しても、亡き翁長知事や現玉城知事が反対を表明、県民投票でも反対が圧倒的多数であ

るにもかかわらず、政府は全く耳を貸さないばかりか、強硬に埋め立て工事を進めています。かてて加えて、安倍首相と現政権の改憲への意欲は一向に衰えることがなく、「権力を憲法によって拘束するまっとうな社会」とは対極にある、「自衛隊の明記」を始めとする改憲4項目に潜む権力の正当化へのみちに、国民の危機感が高まっています。

いまこそ私たちは、民主主義・立憲主義・平和主義を現実のものとするために大きく声を上げていかなくてはなりません。一人ひとりの人権が尊重され、持続可能な、暮らしの豊かさを実感できる政治の実現をめざし、おおぜいの市民とともに積極的に国政に取り組みます。

基本政策●脱原発、省エネルギー、再生可能エネルギー政策を推進する/地域主権を拡大する/憲法を活かす/セーフティネットを充実させる/女性議員を増やす

全国市民政治ネットワークは、第25回参議院議員選挙にむけて、**若林ともこさん**(立憲民主党/元神奈川ネットワーク運動県議)の推薦を決定しました

参院選「比例代表」選挙

若林ともこ 生活者の声が響く政治を!

1961年広島県広島市生まれ。元神奈川県議会議員、元横浜市議会議員、神奈川ネットワーク運動前事務局長。現在、立憲民主党・参議院比例第18総支部長 <https://wakabayashitomoko.jp/>

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン

国連採択30年・日本批准25年/理念の普及めざし集会

2019年4月22日、永田町の衆議院議員会館を会場に、日本で子どもの権利条約の理念を実現するためのキャンペーン立ち上げイベントが開催された。4月22日が、日本が子どもの権利条約を批准した日であることを記念しての開催で、当日は、発言者に子どもの参加を得る中、以後全国規模でキャンペーン活動を展開することを参加各位が約す場となった(主催:広げよう!子どもの権利条約キャンペーン実行委員会、後援:公益財団法人日本ユニセフ協会/超党派ママパ。議員連盟/ユニセフ議員連盟)。

(SDGs)達成と子どもの権利条約の普及・実現のためのアクションについて、日本政府、議員、市民社会が協働して広く周知、議論するきっかけをつくらうと呼びかけたものだ。

子どもを抜きで決めないで!子どもの参加や意見を求めよう!

集会では、予定席数を優に超える参加者が集結し急ぎよサテライト会場が用意される中、国連NGO子どもの権利条約総合研究所代表の荒牧重人さんが開会を宣言。続く基調講演には、日本初の国連子どもの権利委員会委員で弁護士の大谷美紀子さんが登壇。「子どもには権利があり、人格は尊重されなければならないことが未だに浸透していないし、締約国に必須の子どもの権利基本法などの国内法制も急がれる」と指摘。おとな社会が責任を持つて子どもの権利実現に貢献する。

さらにプログラムは、子どもたちを含め登壇者ら(子どもの人権連から平野裕二さん、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの川上園子さんと、大谷美紀子さん)によるパネルディスカッションへ。「子どもへのあらゆる暴力をなくすために私たちができること」をテーマに会場との意見交換を含め行われた。

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン実行委員会(共同代表:荒牧重人さん、喜多明人さん、甲斐田万智子さん)は、集会を機に向こう3年間を目標にキャンペーンを開始する。

文責 編集部/加藤千鶴子

集会では、予定席数を優に超える参加者が集結し急ぎよサテライト会場が用意される中、国連NGO子どもの権利条約総合研究所代表の荒牧重人さんが開会を宣言。続く基調講演には、日本初の国連子どもの権利委員会委員で弁護士の大谷美紀子さんが登壇。「子どもには権利があり、人格は尊重されなければならないことが未だに浸透していないし、締約国に必須の子どもの権利基本法などの国内法制も急がれる」と指摘。おとな社会が責任を持つて子どもの権利実現に貢献する。

さらにプログラムは、子どもたちを含め登壇者ら(子どもの人権連から平野裕二さん、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの川上園子さんと、大谷美紀子さん)によるパネルディスカッションへ。「子どもへのあらゆる暴力をなくすために私たちができること」をテーマに会場との意見交換を含め行われた。

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン実行委員会(共同代表:荒牧重人さん、喜多明人さん、甲斐田万智子さん)は、集会を機に向こう3年間を目標にキャンペーンを開始する。

文責 編集部/加藤千鶴子

現を進めていく必要性を訴えた。

次に、「子どもからの提言」へと進め、意見表明の実例として世田谷区の母子手帳に「子どもの権利」が抜け落ちていたことを指摘した中学生(12歳・当時は小学生)が発言し、世田谷区が再掲を決め実施されることになった経緯を報告。さらに、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの高校生からも、子どもの権利を普及、啓発するための活動紹介があった。

さらにプログラムは、子どもたちを含め登壇者ら(子どもの人権連から平野裕二さん、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの川上園子さんと、大谷美紀子さん)によるパネルディスカッションへ。「子どもへのあらゆる暴力をなくすために私たちができること」をテーマに会場との意見交換を含め行われた。

広げよう!子どもの権利条約キャンペーン実行委員会(共同代表:荒牧重人さん、喜多明人さん、甲斐田万智子さん)は、集会を機に向こう3年間を目標にキャンペーンを開始する。

文責 編集部/加藤千鶴子

集会では、予定席数を優に超える参加者が集結し急ぎよサテライト会場が用意される中、国連NGO子どもの権利条約総合研究所代表の荒牧重人さんが開会を宣言。続く基調講演には、日本初の国連子どもの権利委員会委員で弁護士の大谷美紀子さんが登壇。「子どもには権利があり、人格は尊重されなければならないことが未だに浸透していないし、締約国に必須の子どもの権利基本法などの国内法制も急がれる」と指摘。おとな社会が責任を持つて子どもの権利実現に貢献する。

Information

シンポジウム・先住民族の声は届いたか

6月15日(土) 13:30~ 明治学院大学白金キャンパス本館2階1201教室(白金高輪駅) 宇梶静江、清水裕二、葛野次雄、新井かおり ほか 資料代500円 コタンの会/北大開示文書研究会 0164-43-0128

いらんじゃろう!上関(かみのせき)原発~人も自然も生きものも~

6月16日(日) 13:30~ 明治大学リハビリタタワー9階1096教室(御茶ノ水駅) 河合弘之、堀田圭介 1000円・高校生以下無料 16:30~パレード 上関どうするネット FAX03-5358-9791

講座・SDGsで考える~持続可能な再生可能エネルギーとは?

6月22日(土) 13:30~ 地球環境パートナーシッププラザ(表参道駅) 山下紀明 1500円・学生1000円 市民電力連絡会 FAX03-6380-5244

李光平(リ・グアンピョン)写真展・植民地朝鮮から「満州」へ渡った朝鮮人移民

6月26日~7月7日 12:00~17:00 月・火休館 高麗博物館(東新宿駅) 400円・中高生200円 ◇記念講演会 6/29(土) 14:00~ 1000円(入館料含む)・要予約 東京外国語大学「李光平写真集」刊行委員会/高麗博物館 03-5272-3510



東京国際フォーラム(有楽町)に設置された水飲み場。右はマイボトルで飲みかかせる冷水機



トなどの公共トイレに対して、もっと個別に働きかけなければ解決しない。

生活者ネット都議会定例会で提案
減らそう! プラスチックごみ

東京・生活者ネットワーク都議会議員

山内れい子 [国立市・国分寺市]

都は「レジ袋禁止宣言」を!

レジ袋や食品トレイ、ペットボトルなど使い捨てプラスチックごみが引き起こす地球規模での海洋汚染に対し、世界的な取り組みが始まっている。パーゼル条約の締約国会議で汚れた廃プラスチックの輸出入を規制する制度も採択され、プラスチックごみの削減は喫緊の課題である。

生活者ネットワークは、これまでも容器包装リサイクル法を見直し、拡大生産者責任を強化するよう求めてきた、さらに3月の定例会で、都に、「レジ袋禁止」「レジ袋ゼロ」の宣言、都庁内のコンビニや食堂・売店などでの使い捨てプラスチックの使用禁止、会議の際にペットボトルの飲み物を提供しないこと、マイボトルの推奨キャンペーンや都内各所に水飲み場の設置を提案した。

水道水を飲んで
ペットボトルを減らそう!

都は、昨年3月、マイボトル(水筒)に給水できる常設の水飲み栓を、有楽町の東京国際フォーラムに設置した。また、東京で初めて開催されたIWA(世界水会議)

を機に、イベント開催時に可動型の水飲み栓を配置する取り組みも始めた。水飲み場や給水機があちらこちらにあれば、自動販売機でペットボトルを買うことも減る。使い捨てプラスチックごみ削減にも有効だ。知事は東京2020大会でのプラスチック容器禁止の検討を公表したが、実現に向けて、思い切った施策が必要である。

トイレの使い方
もっと、わかりやすく!

トイレで水の流し方がわからず困った経験はないだろうか。日本のトイレは高機能、きれいと外国人にも好評だが、流し方はレバー式、ボタン式、センサー式などさまざま、使用後に困ったという声が多い。

実は、洗浄ボタンなどの形状や配置にはJIS規格がある。国際的な規格にもなっており、東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルにも明記されている。ところが、民間ばかりか、都庁をはじめ都有施設ですら、規格どおりになっていない。担当部署は統一規格の周知を図ると言っているが、7年前に指摘したときから今に至っても実現していない。

原発事故を考える町田市民の会の活動から
**中村敦夫さんを迎えて
朗読劇「線量計が鳴る」を上演**



町田・生活者ネットワーク市議会議員/原発事故を考える町田市民の会メンバー
わたべ 真実

朗読劇「線量計が鳴る」。4月27日は待ちに待った上演当日だ。上演中は撮影、録音は不可であるため、公演前に原稿執筆の許可をいただきに楽屋に入ってもらった。スタッフが対応されるものと思いきや、おひとりですらしたのにまず驚く。

「線量計が鳴る」は
こうして生まれた

さて、中村敦夫さんの朗読劇「線量計が鳴る」は、原発立地で生まれ育ち、原発技術として働き、原発事故で全てを失った老人の独白のかたち、もちろん東京電力福島第一原子力発電所事故を想起するかたちで進行する。原発のしくみに詳しくない人にもわかりやすく伝わるように、原発の基本情報が十二分に盛り込まれている。

国策原子力だから、政府に都合の悪い情報は隠蔽する、電力会社も同様で、報道は断片的ならばと、この台本作成作業に5年の歳月を費やした。福島の実地に通い詰め、チェルノブイリでは数十年後の福島の様子を見た。資料を丹念に読み込み、専門家のアドバイスも受けたという。公演後、ご本人の舞台挨拶が。この中で、今回で70回目を迎える



楽屋の中村敦夫さん

たという報告に、会場から大きな拍手が湧く。さらに、「百」の都市での上演を目標に置く中村さん。この熱情はどこからくるのだろうか。

「怒り」をエネルギーに
百都市公演をめざす

「私の行動は怒りに支えられている。興奮と義憤の二つの怒りに、だ。そして、自ずと元気になっていく。今年で79歳になるが、2時間立ちっぱなし、しゃべりっぱなしでいて疲れない。怒りが人(ヒト)を元気にするという発見をした」「そうそう、こんなにウケたのは、木枯紋次郎のドラマ出演以来!」との言に、またまた会場から拍手と笑いが起こる。ドラマを知っている世代も多く足を運んでいるらしい。会場には中村さんのファンという人も詰めかけていた。遠くは群馬県からも予約申し込みがあり、188席の会場は満席だった。

東京電力福島第一原発事故の刑事訴訟の被告人、東京電力元会長の勝俣恒久さんは、中村さんの新宿高校時代の同級生だとも。「だめなものだダメ!」反骨精神は子どもの頃から。「ステージから客席を見ていて、みんなの怒りが沸々とわいてくるのがわかる」とも語られた。そして、終演後はキャリーケースを引いて一人颯爽と会場を去って行かれた。

2020東京五輪・パラリンピックが近づいている。プエンスアイルズでの、「あの「アンダーコントロール」発言と呼ぶか」の被災地を置き去りにした「復興オリンピック」。その欺瞞、



4月27日、原発事故を考える町田市民の会が主催する、中村敦夫朗読劇「線量計が鳴る」が上演された(会場:町田市民フォーラム)。公演後のあいさつ

都政
NOW
区市とつなぐ

危険さ。福島原発事故による被害は未曾有で、廃炉の目途さえ立たない。今なお避難生活を余儀なくされている被災者は5万1千人余。とりわけ影響が大きい福島では3万人以上の被害者が県外で避難生活を送っている。東日本大震災の復興期間は10年と定められ、21年3月には復興庁を廃止するとされるが、未だ1万人の人々の居所は仮設住宅で、うち3千人余はプレハブの応急仮設住宅暮らしだ。それでも安倍政権の原発推進は変わらない。

日々の営みや活動に忙殺され、まっとうな「怒り」を忘れてしまいうるようになる私だが、中村さんの舞台上に接し、時を共にしたことで、まっとうな怒りを、私も身のうちに持続していたことを再認識する。生活者ネットワークは、オリンピックよりも被災地支援、子ども・若者の育ち支援にこそ加重を置き、2019年の活動を積んでいく。

●中村敦夫さん(1940年東京都生まれ。俳優、作家、日本ペンクラブ理事、元参議院議員)の近著「朗読劇「線量計が鳴る」(元・原発技術者のモノローグ)」(2018年10月発行)は、台本そのままを本にしている。

編集後記/5月3日、有明の東京臨海防災公園で、「平和といのちと人権を!—許すな!安倍改憲発議—53憲法集会」が開催され、6万5千人が集った。登壇した元NHKプロデューサーで武蔵大学教授の永田浩三さんは、日本軍「慰安婦」を扱った番組に介入、改変させた安倍内閣官房副長官(当時)を批判、言論の自由の大切さを強調した。東京大学教授の本田由紀さんは、すべての人々が憎悪も軽蔑も向けられることなく生活の基盤と多様な可能性を実現していくことを、社会の中に偏って存在する資源を分け合いながら支えていく、新しい社会循環をつくり出していこう、人々を踏みつけにしている現政権に憲法をいじらせてはならないと訴えた。(上坂)